

科目（講座名）	コミュニケーション英語 I（特進、総合）	4 単位	学校必修
教科書	FLEX English Communication I 増進堂		
副教材	①FLEX English Communication I 予習ノート(増進堂) ②Word Box Essential ③Hyper Listening(桐原書店)		

学習の目標

1. 予習を前提とし、教科書を訳すだけでなく S(主語)V(動詞)O(目的語)C(補語)M(修飾語)の構造を理解する。自身で考えて聞く、読む、話す、書くことの言語活動を積極的に取り組めるようにする。
2. 英文の音声や語彙、表現、文法、言語の働きを理解するだけでなく、実際のコミュニケーションで、目的や場面、状況に応じて積極的に活用できるようにする。
3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、リテリングを通じて情報や考えなどについて簡潔に書いたり、簡単な英語で話し合ったりすることができる。
4. 外国の文化に対する理解を深めると同時に、自国の文化も考えを深める。

＊特進と総合クラスは同じ範囲を学習し、考査問題も同じであるが、進度が速く、深く学習する。

授業内容

1. 『FLEX』を主教材とし、予習ノートを活用して授業に臨み、発展的な学習ができるようにする。
2. 『WORDBOX』を使用し、付属のリスニングアプリを活用しながら、実用的な語彙力を身につける。
3. 文法書などを用いながら、文法事項を自分で学習する基礎固めをする。
4. JET・ALT を活用しながら、自主的にコミュニケーションを取ること、理解できるように育成する。

学習方法

・予習に時間をかけ、復習は考査前とし、基礎固めをしていく。
・和訳は予習時に渡し、語彙や文法等の基礎に力を入れる。
・中学校で学習した既習事項を定着させるために橋渡し教材も活用する。
・毎週単語テストを実施し、満点は張り出し、不振者は呼び出し、指導する。

評価の観点

関心・意欲・態度	・単語テストや小テストに積極的に参加している。 ・ペアやグループの中で間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
表現の能力	・自然な発音で発話することができる。 ・自主的に教科書の内容に基づいて、情報や考えなどについて、書いたり話したりできる。 ・語彙、文法などを理解したうえで、自分の考えをもとにして表現できる。
理解の能力	・教師やパートナーの言ったことを正しく聞き取れる。 ・定期考査、小テスト等に積極的に取り組み、良い成績をあげることができる。
言語や文化についての知識・理解	・書き手、話し手の内容を通して、さまざまな国の文化を積極的に理解できる。

評価方法

上記の評価の観点を参考にし、また英語科の評価法をもとにして1, 2 学期はそれぞれの学期の成績を、3 学期は通年の総合成績で評価する。(いずれも絶対・相対を加味した5段階評価)
--

年間計画

学期	月	配当時間	単 元	学 習 内 容	学習上の留意点
1	4	6	Lesson 1	"Lesson 1 Behind Kumamon くまモンを通じて日本のゆるキャラ文化を理解する。受身、不定詞、動名詞	① 発音記号を理解しながら正しい発音ができているかどうか確認をする。 ② 中学での既習事項について学習し、理解できているかどうかの支援をする。 ③ SVOCM を理解し、英文が読めるか確認をする。 ④ 1学期のまとめを行う。夏休みの宿題および勉強法について説明を受ける。
	5	8	Lesson 2	"Lesson 2 Hacking your brain 脳の働きによって、どのように勝つかを考える。進行形、間接疑問文、分詞	
	6	1 6	Lesson 3	"Lesson 3 It's always sunny in space 人口増加により、増えるエネルギー需要をまかなうかを考える。助動詞、句、現在完了	
	7	1 4	Lesson 4	"Lesson 4 Malala: Fighting for Women's rights 発展途上国で女子が教育を受けられない現実を知る。関係代名詞	
2	9	1 4	Lesson 5	"Lesson 5 Mount Fuji 世界自然遺産富士山について考える。原形不定詞、接続詞 that	① 語彙力や文法事項が身についているかどうか定期的に小テストを行いながら進めていく。 ② 中学での既習事項について、復習し英文が理解できているかどうか、確認をする。 ③ 英語でコミュニケーションを取ることに自信がない生徒に自己肯定感を持たせ、英語でコミュニケーションがとることができるように支援する。
	10	1 4	Lesson 6	"Lesson 6 Donald Keene and His Love of Japan 日本が好きで、それを外国へ広めた外国人の話 強調構文、受身進行形、付帯状況 with	
	11	1 4	Lesson 7	"Lesson 7 Virtual Water 飲み水が豊富な島国の日本がなぜ沢山の水を輸入するのかを考える。関係代名詞非制限用法、関係副詞	
	12	1 3	Lesson 8	"Lesson 8 Wearable Robots May change our life 着られるロボットが福祉や医療を変える 仮定法過去、過去完了	
3	1	1 0	Lesson 9	"Lesson 9 Biomimicry Inspired by nature 自然界の生物を真似をして人類の進化を考える。文型 SVOC、if の無い仮定法、分詞構文	① 新出語彙が増える時期なので、特に語彙の定着を図る。 ② 本文の内容に関してグループで話し合い、まとめる ③ 1年間のまとめを行う。春休みの宿題について説明を受ける。
	2	1 4	Lesson 10	"Lesson 10 His Holiness the 14 th Dalai Lama チベット仏教、政治的指導者ダライラマの人生を知る。部分否定、複合関係代名詞、分詞構文の受身	
	3		まとめ	総まとめ	

科目（講座名）	英語表現Ⅰ	2単位	学校必修
教科書	DUALSCOPE English ExpressionⅠ（数研出版）		
副教材	DUALSCOPE English ExpressionⅠドリルブック（数研出版） 新訂版チャート式シリーズデュアルスコープ総合英語（数研出版） HyperListening Elementary 4th Edition（桐原書店）		

学習の目標

1. 中学校の既習事項の内容、また基礎・基本を身に付ける
2. 文法事項学習しながら、話す〔やりとり〕、話す〔発表〕、書くための表現方法を豊かにする
3. 学習した文法事項、表現事項を用いて自分の考え、気持ちを表現できるようにする

授業内容

1. 「DUALSCOPE English ExpressionⅠ」を主たるテキストとして、基本的な表現を学び、自分のことや与えられた課題について、書いたり話したりする。
2. 「新訂版チャート式シリーズデュアルスコープ総合英語」を用いて英文法を理解し、知識として定着させる。
3. 「HyperListening Elementary 4th Edition」を用いてスピーキングにつながるリスニング力をつける。

学習方法

- ・ 1クラス2展開の少人数授業形式で行う。
- ・ モデルの提示→説明→演習→書く・話すという流れで、授業を行う。
- ・ 発展的な内容は「新訂版チャート式シリーズデュアルスコープ総合英語」で自学とする。
- ・ Workbook は主として家庭学習用に用い、学習した内容を定着させるようにする。

評価の観点

関心・意欲・態度	・ 授業の予習と復習ができています。 ・ 課題をしっかりとやり、期日に提出できる。 ・ 間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
表現の能力	・ 英語らしい発音で発話することができる。 ・ 学んだ文法を使って、書いたり、話したりすることができる。 ・ 自分のことや、与えられた情報などを基に書く、話すことができる。
理解の能力	・ 文法の働きを理解しながら、英文が理解できる。 ・ 定期考査・小テスト等に前向きに取り組み、良い成績をあげる。
言語や文化についての知識・理解	・ 各学習する単元をだけでなく ・ 外国人講師の授業を通して、他国の文化や習慣への関心を高められる。

評価方法

上記、評価の観点を参考にし、1、2学期は、それぞれの学期成績を、3学期は通年の総合成績で、評価する。（いずれも、絶対・相対を加味した5段階評価）

学期	月	配当 時間	単元	学習内 容	学習活動とその留意点
1	4		Lesson 1 英語の型で 表現する	5 文型	英文における動詞の役割を理解させる活動をさせ、英文には5種類の文型があることと、語順を正確に並び替えることができる活動をする。
	5		Lesson 2 さまざまな「時」を 表現する	時制 進行形 完了形	予定についての英文を用いながら、未来、現在、過去、進行形、完了形の違いと概念や違いを理解しながら表現できる学習活動をする。
	5		Lesson3 助動詞を使って 表現する	助動詞	各助動詞の種類、活用について学び、助動詞を使いこなせる学習をする。また英語における丁寧な表現方法、依頼表現についても学ぶ。
	6		Lesson4 受動態を使って 表現する	受動態	英文における受動態の語順、用法について学習をした上で、受動態の用法について学習をする。
	7		Lesson5 不定詞を使って 表現する	不定詞	中学校での既習事項について確認しながら、数ある不定詞の種類について学習をする。
2	9		Lesson6 動名詞を使って 表現する	動名詞	動名詞の用法と概念について学習をする。また動名詞、不定詞の違いを学びながら大学・短大レベルの入試基礎問題を学習する。
	10		Lesson7 分詞を使って 表現する	分詞	英文の中で分詞の働きと、分詞の位置を正確に配置でき、分詞を用いた簡単な英文を自ら表現できる学習。
	11		Lesson8 比較を使って 表現する	比較	比較級を用いて、基本的な英文を表現できるようにする。また基礎問題を解答できるようにする。
	12				

3	1		Lesson9 関係詞を使って 表現する	関係詞	関係代名詞を含んだ簡単な英文を書くこと、話すことができる学習。関係代名詞は、躓きやすい事項のため生徒の理解度を配慮する。 仮定法の英文構造について学習をし、仮定法過去と仮定法過去完了の違いについての学習。
	2				
	3		Lesson10 仮定法を使って 表現する	仮定法	

科目（講座名）		社会と情報	2 単位	必履修
教科書	最新社会と情報 新訂版（実教出版）		担当教諭	石井 嵩人
副教材	パーフェクトガイド情報（実教出版）			

学習の目標

情報活用能力を身につけ、情報社会の参画する態度を身につける

授業内容

- ・ 情報機器を利用した情報伝達の工夫
- ・ 情報の収集と発信
- ・ 情報の統合的処理と情報機器

学習方法

- ・ ワードプロセッサ，表計算ソフトを使った実習を通して情報伝達，活用能力をつける
- ・ 情報の収集方法，情報発信の注意点について学び，情報検索，web ページ作成実習で能力をつける
- ・ 音声，画像の利用方法について学び，プレゼンテーション作成実習で活用する
- ・ コンピュータなどの情報機器の基本的なしくみやはたらきを調べ，機器のトラブルに対処する能力をつける。

評価の観点

関心・意欲・態度	情報伝達，活用実習の課題に取り組み，その結果を提出する。
思考・判断	情報伝達，活用実習の課題に対して適切な処理方法をとれる。
表現・処理	情報伝達，検索，収集，活用実習等で，課題の指示どおりにできる。また，適切な表現を用いることができる。
知識・理解	情報の収集方法，情報発信の注意点についての基礎知識を理解している。 コンピュータなどの情報機器に関連する用語の意味を理解している。 情報機器の基本的なしくみやはたらきについて理解している。

評価方法

定期考査，提出物，実技テスト，出欠状況，授業態度を年間で総合的に判断して評定をつける。

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4 5	4 7	表現と伝達	・表現の工夫(Word)	・“情報”の意味を考える。 ・情報の取捨選択、わかりやすい情報伝達のための要件について学ぶ。 ・効果的な表現方法を理解する。 ・表現メディアの特性を調べ、それぞれの特性を生かした事例を考える。 ・ワードプロセッサの基礎的な機能について、学習する。
	6 7	8 3	情報機器とデジタル表現	・情報機器とデジタル ・デジタル表現	・コンピュータにおけるデジタル情報の扱いについて学習する。 デジタル信号の特徴について学習し、データのデジタル化のしくみについて理解する。
2	9 10	7 7	表現と伝達	・表計算ソフトの利用(Excel)	・表計算ソフトの関数を扱う。 ・表、グラフを学習し、わかりやすい表現方法を各自工夫する。 ・データの検索、抽出の具体的な操作方法を学習する。 ・個人の進み方の違いに注意しながら指導する。
	11 12	9 6	表現と伝達	・プレゼンテーション(PowerPoint)	・プレゼンテーションソフトウェアで発表用資料をつくり、プレゼンテーションをおこなう。 ・音声や動画を扱うアプリケーションソフトウェアについて学習する。

3	1 2 3	6 7 3	情報社会と問題解決	・情報システムと人間 ・問題解決 ・情報発信(ホームページ作成)	・Web サイト制作の流れについて理解する。 ・Web サイト制作実習を通じて、文字、画像の表示やリンクの設定を学ぶ。
---	-------------	-------------	------------------	--	--